

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業 "Opening a New World from the Classroom" Project, Hiroshima



チョンアンサンヨン中学校



福山市立東中学校



交流授業

第1回交流授業

Where is our city,
Fukuyama?



Name of our School



I want to go to Korea



各校の紹介クイズ (動画・スライド)

ブレイクアウトルームでの会話
(自己紹介&クイズ)

①学校・地域紹介 (全体)

チョンアンサンヨン中学校の担当教員、東中学校代表生徒がCanva (写真・動画) や Google スライドで自分たちの学校を紹介した。自分たちの学校や地域についての紹介クイズを行った。

チョンアンサンヨン中

- ・学校名、場所など
- ・チョンアン市について
- ・有名な食べ物

東中 (生徒作成)

- ・学校名、場所、生徒人数など
- ・福山市について
- ・東中生徒の好きな韓国料理ランキング

②自己紹介 (グループ)

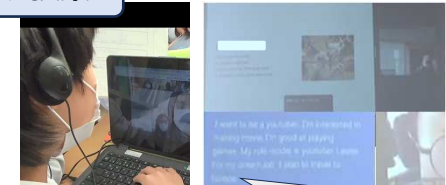
ブレイクアウトルームで東中学校生徒がGoogle Slideで自己紹介やクイズを行った。

《接続方法: Zoom》

第2回交流授業



日常会話の交流、スライドでの自己紹介



チョンアンサンヨン中学生の
自己紹介とミッション遂行!

①韓国生徒による自己紹介 (全体)

チョンアンサンヨン中学校生徒がPadletで自己紹介 (将来の夢) を行った。東中学校生徒からの質問にチョンアンサンヨン中学校生徒が答えた。韓国語、日本語による日常会話の交流 (※挨拶等の簡単な表現) を行った。

②自己紹介 (グループ)

ブレイクアウトルームでチョンアンサンヨン中学校生徒が自己紹介を行い、その内容について両校の生徒がやり取りを行った。東中学校生徒が自分が決めたミッションに挑戦した。

- ミッション例
- ・相手の名前を覚える
 - ・自分の名前を覚えてもらう
 - ・相手の好きなアニメや有名人を聞き出す

《接続方法: Zoom》

大切にしたこと

- ・ゴールイメージを生徒と共有し、生徒自身がミッションを考え、目標達成に向けて自主的に活動が行えるようにした。
- ・ブレイクアウトルームを使って、個々の生徒ができるだけ多くの時間、英語でやり取りできるようにした。
- ・できなかったことをできるようにするためには、どうすればいいのかを考えさせ、実行させた。
- ・実際の交流活動を成功させるために、常活動等において、4月から様々なトピック、場面設定で自分の意見が簡単な英語で話せるようにした。
- ・困難なことがあってもあきらめずに、自分たちで工夫しながら活動を続けることができるように日頃から支援した。

交流を終えて

生徒の声

- ・外国の友達ができ嬉しかった。自分の言いたいことや相手の言いたいことを伝え合えて楽しかった。
- ・韓国の生徒がせっかく話してくれたのに、分からない単語があって理解できなかったのが悔しかった。英語をもっと勉強したいと思った。
- ・学校で習ったことが役に立った。
- ・いい経験になった。卒業まで韓国との交流を続けたい!

先生の声

- ・多くの生徒にとって、とても有意義な取組になった。生徒たちは、初めは思うようにならず、戸惑うことが多かったが、試行錯誤しながらも、伝えたいことが自分の言葉で伝わった時の生徒の喜びと笑顔は忘れられない。外国の中学生とつながる嬉しさ、楽しさや、普段の授業で学習したことが実際に役立ったと実感してくれたと思う。
- ・これからの交流を有意義なものにするためにも、生徒にどのようなことができるようになってほしいかなど、具体的なゴールイメージをきちんともって授業づくりを行い、生徒が楽しく学習していけるよう支援していきたいと思う。

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業 “Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



チョンナム中学校



呉市立両城中学校



交流授業

第1回交流授業



相手校との初めての
自己紹介



文化についての
クイズ問題に挑戦

第2回交流授業



1回目の交流で学んだことを
生かして会話が盛り上がる！



相手校が韓国の名所
を紹介している様子

①生徒代表の挨拶（全体）

本校第2学年生徒代表による挨拶で授業を始めた。まず相手に感謝の気持ちを伝え、本日の授業で交流する内容等について説明した。

②自己紹介（グループ）

グループごとに一台の端末の周りに集まり、事前に作成したネームカードを見せながら自己紹介をした。自分の話したことが伝わったり、相手に自分の名前を呼んでもらったりするたびに喜ぶ姿が見られた。

③文化紹介クイズ（グループ）

互いの国や地域の文化を紹介するクイズを実施した。事前に伝えたい情報をまとめたスライド資料を画面共有しながら提示した。互いの国について知らなかったことを知れて喜んでいた。また、「相手も●●のことを知っていた！」という驚きの声もあった。

④Q&Aタイム（グループ）

残りの時間を使って、関心のある事柄について話したり質問したりする等、相手と自由に会話を楽しんだ。

◀接続方法：Zoom▶

①生徒代表の挨拶（全体）

相手校の生徒による挨拶、学校紹介で始めた。チョンナム中学校の特色についての紹介を聞いた。

②自己紹介（グループ）

生徒の発話時間を確保するために、各グループの人数を前回の半分に減らし、グループ数を増やした。前回交流したグループとは違うグループに分かれ、自己紹介をした。

③画校によるおすすめ場所紹介（グループ）

先生間の事前連携で、相手校の生徒が日本のおすすめスポットについて興味があるということが分かったため、呉や広島の魅力ある場所を紹介した。スライド資料に示す英文を最小限にし、自分の言葉で表現した。途中、うまく伝わらない場面もあったが、生徒はジェスチャーを用いたり、既習の語彙や表現を駆使したりすることで、何とか相手に伝えようとしていた。また、相手校の生徒からは、韓国の名所について教えてもらった。

④Q&Aタイム（グループ）

互いに紹介した内容や関心のある事柄について話したり質問したりする等、相手と自由に会話を楽しんだ。話の途中で終了時間を迎えたグループもあり、「もっと話したかった。」という声も多く聞かれた。

◀接続方法：Zoom▶

大切にしたこと

- ・会話を円滑に進めるため、“Could you say that again?”等の定型表現を事前の帯学習で練習し、交流授業で活用できるようにした。
- ・韓国の中学生と既習の英語を使って交流できることを今年度の授業の目標の1つとして生徒と共有し意識させた。その目標達成に向けて言語活動を充実させた。
- ・相手校とのメールのやり取りで、授業イメージや準備の進捗状況を共有し、両校共に、授業のねらいを達成できるよう、準備や当日の運営を行った。
- ・当日のICTトラブルを軽減するため、海外校との事前の接続テストや生徒へのICT機器操作に関する指導を徹底した。また、Zoomによる授業の運営については教育委員会のICT支援員の支援の下、安心して実施することができた。

交流を終えて

生徒の声

- ・クイズの答えが分からなかった時に、相手校の生徒がジェスチャーで教えてくれたのが嬉しかった。コミュニケーションが取れた。
- ・相手に質問したことで、会話が広がった。
- ・（第2回交流授業について）前より会話が続いたこと、外国の人と考えを共有できたこと、楽しく話すことができたことが嬉しかった。相づちや発音を完璧にしたい。

先生の声

- ・簡単な語句や表現を用いてコミュニケーションを図る中で、会話が盛り上がり、生徒に自身の英語力に自信をもたせることができた。多くの生徒に、自分の気持ちや考えを伝えることができた達成感を味わわせることができた。
- ・海外の同年代の生徒とコミュニケーションを図ることを通して、本当に聞きたいこと、本当に話したいことを伝え合えたことで、生徒の英語学習に対する意欲が更に高まった。

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



交流授業

グアンプン中学校



第1回交流授業



交流時間は
1グループ20分

4会場に分かれ電子黒板を使って交流

< 4会場で開催（4会場×6回で、4学級を24グループに分けて交流）>

①全体会なし

生徒同士の交流時間を十分確保するため、全体会は行わなかった。

①自己紹介

1台の電子黒板の周りに集まり、グループ毎に交流した。班長が班の人数と名前を紹介した後、一人一人が自己紹介をした。自分の名前や好きなもの（アニメやスポーツ、K-popグループ等）等をタブレットで提示しながら自己紹介を行った。

→相手がよく反応してくれたため、生徒が楽しみながら交流を行うことができた。



②学校紹介or地域紹介

グループ毎に学校紹介又は地域紹介を作成した。グループ全員が話せるよう、グループ内で協力して英文やスライドを作成・準備した。紹介の中に「3択クイズ」や「T or F クイズ」を取り入れ、一方通行の発表にならないよう工夫した。

→多くの班で時間が足りず、次回への持ち越しとなった。
※今回の交流を通して、相手の興味・関心のあることについて知ることができた。
※発表よりもやり取りの方が交流が楽しいことが分かった。

→2回目の交流に向けた改善点とした。

≪接続方法：Zoom≫

廿日市市立大野東中学校



第2回交流授業



発表3割、やり取り7割
Free Conversationが楽しい！

交流時、生徒は自分達だけで交流

< 4会場で開催（4会場×6回で、4学級を24グループに分けて交流）>

①全体会なし

1回目同様、生徒同士の交流時間を十分確保するため、全体会は行わなかった。

①自己紹介

Do you remember me? 等、一人一人が再度自己紹介をしたが、2回目の交流のため、スムーズに行うことができた。

②学校紹介or地域紹介（5分以内）

前回時間が足りず、持ち越しとなった学校紹介又は地域紹介を行った。

③Free Conversation

1回目の反省を生かし、Free Conversationの時間を多く取った。相手の反応・様子を見ながら、生徒は話題を選択した。生徒だけで交流し、教員はタイムマネジメントと機器の不具合への対応のみに徹した。

発表
3割

やり取り
7割

≪接続方法：Zoom≫

大切にしたこと

- ①クロスカリキュラムで学習内容と時間を有効活用！
- ②相手校とのメールのやり取りはシンプルに！
- ③できるだけ相手校に合わせる！（交流日時、時間割、接続方法等）
- ④交流人数の違いは工夫次第で解決可能！
- ⑤交流時間をしっかり取る！
- ⑥交流内容は作り込みすぎない！
- ⑦相手の興味のない話題はすぐ変更！
- ⑧教員はタイムマネジメントと機器の不具合への対応のみに徹する！
- ⑨交流時のデジタル機器等の環境大事！
- ⑩本事業の目的を授業の中で伝え続ける！

生徒の声

- ・廿日市についてのクイズをすると楽しんでくれて、クイズを作ってよかったなと思った。
- ・英語で話すことの楽しさを知れた。もっと外国人と話してみたいと思った。
- ・母語が違っても、同じ言語を学んでいれば何とか分かることが分かったし、楽しかった。
- ・いざ話そうとすると人見知りが出てしまって、話すことが難しかった。何でもやってみればよかった。
- ・この経験を生かして次は留学などを通して、もっと身近に異文化を感じたいと思った。

交流を終えて

先生の声

- ・英語を使って、教室内で外国の同世代の人と第3学年の生徒全員が交流機会をもてたことは、大変有意義であった。
- ・多くの生徒が本事業の目的を理解し、英語を用いて仲間と協力し合いながら楽しんで交流していた。英語学習の意義を体感し、その後の学習意欲につながることができた。
- ・本事業を通して、生徒の意欲面（本事業「英語の授業についてのアンケート」）、学力面（英検IBA・広島県中学校英語「話すこと」に関する調査）の両方で成果が見られた。

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業 "Opening a New World from the Classroom" Project, Hiroshima



ソンナム中学校



三原市立本郷中学校



交流授業

第1回交流授業



韓国の学校について聞いている様子



好きなものについて紹介している様子

第2回交流授業



前回話したメンバーと再会した時の様子



韓国の生徒のプレゼンテーションを聞いている様子

①挨拶 (全体)

両校の英語担当教員と生徒が挨拶を行い、担当教員が交流授業の流れを確認した。

②学校紹介 (全体)

両校の英語担当教員が、学校の様子、学校行事等について、パワーポイント資料を提示しながら紹介を行った。

③自己紹介 (グループ)

両校の生徒を5グループに分け(1グループ:ソンナム中学校4名、本郷中学校5~6名)、グループMeetで各自の名前と好きなものについて簡単な自己紹介を行った。生徒は自分の名前を書いたカードと好きなもののイラストや写真、実物を用意し、画面に映しながら紹介した。

④Q&A (グループ)

自己紹介後は、互いが話した内容についてコメントを伝え合ったり、質問したりしながら交流した。

⑤振り返り (全体)

両校の英語担当教員が振り返りを行った。

≪接続方法: Google Meet≫

①挨拶 (全体)

両校の英語担当教員と生徒が挨拶を行い、担当教員が互いの学校の近況を伝え合った。

②自分の国・興味のあること紹介 (グループ)

自分の国のこと(文化、場所、食べ物、アニメ等)について、または、韓国のこと(文化、K-pop、ドラマ等)について互いに紹介した。その際、事前に作成したスライドを画面共有した。

※事前の担当教員間の連携で、互いに発表内容を理解しやすくするため、スライドを作成することを確認した。スライドには、写真、イラストに加え、文章も載せた。

③Q&A (グループ)

一人の発表が終わるたびに感想を伝え合ったり、質問をしたりしながら交流した。

④振り返り (全体)

両校の英語担当教員が活動を振り返り、フィードバックを行った。

≪接続方法: Google Meet≫

大切にしたこと

- ・生徒同士が英語でコミュニケーションを図る時間を最大限に確保することを大切に。そのため、小グループで交流を行うことで生徒一人一人の発言機会が多くなるようにした。
- ・生徒がやり取りする際、音声だけではなく、提示資料があった方が互いに理解しやすいと考え、2回目の交流授業ではスライドの共有を行った。

交流を終えて

生徒の声

- ・外国の人と英語で会話することが新鮮だった。
- ・色々な表現を身に付けて、質問を準備して、もっと会話ができるようにしたい。
- ・実際に英語を使って会話することは難しかったけれど、表情を見たりできたので楽しかった。
- ・スライドで紹介したことなどで話題が広がり、話が弾んでとても楽しかった。
- ・言語が違っても、英語で自分が言いたいことが伝わった時は、とても楽しかった。

先生の声

- ・「もっと話したい。」「次は〇〇したい。」と前向きに取り組み、交流を楽しむ姿が見られ、本事業に参加して本当によかったと思う。
- ・英語で話すという経験をしたこと、またその経験から「通じる」という自信を得た生徒が多かった。
- ・英語を使う必要性があったことで、準備にも一生懸命取り組む姿が見られた。

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業 “Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



ファソン中学校



庄原市立高野中学校



交流授業

第1回交流授業



学校紹介クイズの様子



自己紹介の様子

第2回交流授業



クイズに
参加している様子



自己紹介の様子

①挨拶、授業の流れの確認(全体)

相手校の教員が挨拶を行い、授業の流れを確認した。

②学校・地域紹介(全体)

両校の生徒がパワーポイント資料を提示しながら、自分たちの学校や地域について紹介した。本校の生徒は、1つのトピックにクイズを1問入れて発表した。相手校の生徒が手を挙げる等して、クイズに参加してくれた時には、言葉が通じていると実感し、盛り上がった。

- ◆高野中学校…地域の有名なもの、時程、科目、規則、部活動、行事
- ◆ファソン中学校…地域の有名なもの、時程、韓国語等

③自己紹介(グループ)

両校の生徒が、4つのグループに分かれてブレイクアウトルームに入り、自分の名前、ニックネーム、好きなもの等について交流した。言葉で伝えるだけでは難しいと思い、紙に大きく名前の呼び方を書いたり、好きなものの写真を貼ったりして伝えた。“Once more.”などの英語が自然と出ており、何とか相手の話を理解しようとしていた。

④振り返り(全体)

両校の生徒の代表が授業の感想を述べ、本校の教員がまとめをして終えた。

◀接続方法：Zoom▶

①挨拶、授業の流れの確認(全体)

本校の教員が挨拶を行い、授業の流れを確認した。

②クイズで文化紹介(全体)

両校の生徒がパワーポイント資料を提示しながら、自分たちの国の文化についてクイズを取り入れながら紹介した。互いに参加型であるクイズを行うことで、正解した時には盛り上がった。

- ◆高野中学校…食べ物、アニメ、ゲーム、自然、日本語等
- ◆ファソン中学校…食べ物、歴史、文化、スポーツ、韓国語

③自己紹介(グループ)

両校の生徒が、前回と異なる4つのグループに分かれてブレイクアウトルームに入り、自分の名前、ニックネーム、好きなものなどについて交流した。前回作成した自分の名前や好きなものの写真を貼った紙を活用し、会話をを行った。相手校の生徒が日本のことをよく知っていることに気付いたり、名前を呼んでもらえたりして、生徒は嬉しかった。

④振り返り(全体)

両校の生徒の代表が授業の感想を述べ、相手校の教員がまとめをして終えた。

◀接続方法：Zoom▶

大切にしたこと

- ・生徒一人一人が話す機会をもてるように、小グループでの交流を実施した。
- ・相手校の生徒とできるだけ双方向のやり取りができるように、紹介の時もクイズを入れたり、失敗を恐れずコミュニケーションを図ったりすることを大切にしました。
- ・声が聞こえなかったり、反応がなかったりした時に相手に伝えられるように、そのための英語表現を事前に学習し、当日もホワイトボードに示しておくようにした。
- ・会話が途中で止まって困ることがないように、どんな話ができるかを考えさせ、話題をたくさん準備するようにした。

生徒の声

- ・自分の名前を呼んでもらうことができ、よい思い出になった。
- ・相づちを打ったり反応したりすることで話がとても弾んだ。
- ・クイズの時、相手に伝わって嬉しかった。
- ・韓国のことが分かったり、クイズに参加できたりしてとても楽しかった。
- ・色々な日本の文化が韓国にも入っていると知ることができた。
- ・今までにない体験だったので、一生忘れられない体験になった。

交流を終えて

先生の声

- ・発表よりもクイズの方が盛り上がり、つながりを感じて楽しく交流できた。
- ・自分のことを知ってもらおうと一生懸命英語で伝える姿や、相手のことを知ろうと何度も英語で聞いている姿が見られたことにより、教員が教えてきたことを生徒が生かしていると感じるとともに、コミュニケーションを図る必然性をもたせることは大事だと感じた。
- ・グループでの会話の際には、事前に話題をたくさん考えたり、声が聞こえない等のトラブルに対応できる英語表現等を確認したりしておくことで、自分たちで色々な話のできていたので準備は大切だったと思った。